

## 著作権に係るお断り

この講演会に関する手許資料等は、著作権法により保護されております。下記条件に含まれない複製や転載は禁止しております。他のウェブサイト・印刷物・電子メディアなどへの転載は一切許可されません。無断転載には法的措置を取る可能性があります。ご理解とご協力をお願いします。

金沢大学附属特別支援学校

講演年月日 令和5年8月3日（木）

演題 「子どもの発達と言葉の世界 ―生活や文化をいっしょに創り出しながら―」

講師 滋賀大学教育学系 教授 白石恵理子

### 著作権に関する留意点

・この講演会に関する配付資料は、以下の条件において、部分的に複製・配付が可能です。

- 1 営利を目的とせず、本講演会の内容・主旨を各所属校において伝達するために活用する。
- 2 資料に一切手を加えないことを条件に、複製・配付することを許諾する。
- 3 研究等で引用・参考とする場合は出典を明記する。

出典：「金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校令和5年度教育講演会『子どもの発達と言葉の世界 ―生活や文化をいっしょに創り出しながら―』（滋賀大学教授 白石恵理子）手許資料

# 子どもの発達と言葉の世界 ～生活や文化をいっしょに 創り出しながら～

2023/8/3

白石恵理子（滋賀大学）

## 発達の主人公は、 一人ひとりの子ども自身

- 誰もが、自分で自分をつくりかえていく
- おとなは、それを見守り、励ますことはできても、「肩代わり」することはできない
- 発達をとらえるとは、「本人」目線で考えること  
「本人さんはどう思てはるんやろ」（岡崎英彦）

# 子ども理解とは、 子どもを深く信頼すること

- 教育的営みは子どもを信頼することから
- 分析的理解と共感的理解
- ⇒「なぜ、エレベータの閉まる瞬間に笑うのだろう？」
- 子どもも、おとなを一生懸命に理解しようとしている
- 「まるごと」とらえる
- 実践での検証との往還が大切
- 「同じ」と「ちがい」を往還しながら、子どもの見方を深めていく

## 「ゆれ」「ゆらぎ」がもつ値打ち

- 発達過程でみられる「ゆれ」「ゆらぎ」
  - ⇒ 発達とは右肩あがりにきれいに進むものではない  
行きつ戻りつを繰り返しながら
- とりわけ「発達の節」は「発達の危機」「子育ての危機」
- 新たな社会的関係のなかで自分をつくりなおす思春期・青年期
- ふとんにもぐりこんだケンゴさんのこと
  - 「頑張り屋のケンゴさん」？
  - 「いや」「仕事きらい」と言えた！
- 子どもの人生に寄り添って考える

# 子どもの「ねがい」に立ち返って

- 「ねがい」があるからこそ、「不安」「悩み」「葛藤」も生まれる
- 「悩み」「葛藤」を、他者への信頼、自分への信頼によってのりこえていけるように
- 表に見える要求が必ずしも本当の要求とは限らない
  - ⇒ 「要求」と「発達要求」
  - ⇒ 要求を受け入れるのではなく受けとめるとは？
- 「ねがい」は発達による規定を受けつつ、教育、生活の質をくぐって培われていく
- 実践とは、子どものねがい、価値観と、教師集団のねがい、価値観を擦り合わせて新しい価値を創造していくこと

## 「発達段階」のもつ意味

- 外界をどうとらえ、どうとりこみ、どうはたらきかけようとしているのか、そして、自分をどうとらえ、どう変えようとしているのか…
  - ⇒ 同じ発達段階であるということは、そこに一定の共通性があるということ
- たとえば…
  - ⇒ 「ジブンデヤリタイ」
  - ⇒ 「おにいちゃん／おねえちゃんになりたい」
  - ⇒ 友だちから認められる自分になりたい

# 1 歳半頃の発達

- 発達の大きな質的転換期
- 自分のつもり（目的）をつくって行動する  
つもり（目的）→達成感→「もっと」  
「もう1回」を大切に
- 「～ダ、～ダ」から「～デハナイ～ダ」へ
- 魅力ある道具への挑戦
- 子どもたちの「やりたいこと」の重なりを探る
- 話しことばの世界へ  
子どもの「ことば」（指さし、目線なども含めて）を尊重する  
「ことば」っていいなあ…と思えるような授業って？

## 2, 3歳ころの発達

イメージの広がりとおそび

変化する素材のねうち

「～シテカラ～スル」

自他の領域分化と調整—まねっただけに追い込んでいない？

対比的認識—見比べる、考える…中間項はまだない

形容詞の世界の広がり

自分の世界を拡大しながら、少しずつ他者を受け入れていく

二分的評価と葛藤—一緒にあそびたい、でも入っていけない…

他者との多様な関係と自我

具体的な目の前の活動を通して、目の前にいる人とねうちをつくる

## 4歳頃の発達

- 「～しながら～する」
- 思考をくぐる一見えない世界への挑戦、「なんで？」…
- 相手のことばの題意をとらえる
- 思考の道具としての「ことば」のめばえ
- イメージの世界、虚構の世界で遊び込める
- 「自分デデキタ」「自分デカンガエテデキタ」が自信になる
- 集団の中での自分の位置、役割が見えてくる
- 目の前の活動との関係での達成感や葛藤から、自分自身との葛藤へ
- 自分で自分を励ます
- 「やり方」への留意—表現内容と表現方法の分化
- 「教える」力の芽生え

## 5, 6歳頃の発達

- 「まん中」をとらえる—“マ、イイカ”“テキトウ”
- 時間的認識—だんだんと変わっていくことへの理解
- 系列的理解
- すじみち、文脈、ストーリーの形成
- 概念化のきざし—違うけど同じ
- ものごとの法則性を感じはじめる
- 多面的評価—視点の移動…
- 自己形成視
- 「ぼくら」「わたしら」
- 共同の活動とルールへの創造
- 相手に教える、約束と秘密、仲間文化の創造へ

# おはなしあそびの実践から

- 羽田千恵子『文化に出会い、友だちに出会うー障害の重い子どもたちと創る授業・教育・学校ー』（クリエイツかもがわ、2019）より

「文化」を通して、人がつながる

- 「教師集団が各々の分化的持ち味をどう活動に練り込むかが大切」
- 「教師の存在と意図自体が文化」
- 「子どもたちの気持ちとキャッチボールしつつ、その総体としてのお話遊びが一期一会で綴られる」

## 参考文献

- 白石恵理子『障害のある人の発達保障 成人期のなかまたちが教えてくれること』全障研出版部 2018
- 白石正久・白石恵理子「発達のなかの煌めき」『みんなのねがい』に連載中
- 白石正久・白石恵理子編『新版 教育と保育のための発達診断 上 発達診断の基礎理論』全障研出版部、2022
- 白石正久・白石恵理子編『新版 教育と保育のための発達診断 下 発達診断の視点と方法』全障研出版部、2020
- 羽田千恵子他『文化に出会い、友だちに出会うー障害の重い子どもたちと創る授業・教育・学校』クリエイツかもがわ、2019
- 白石恵理子他『わたしのなしをかってください 生活にねざして 文化をはぐくむ』（KSブックレット31）きょうされん